

会議の要旨（議事録）

会議の名称	鳥栖市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会		
開催日時	平成29年2月27日 13:30~14:30	開催場所	鳥栖市役所2階第1会議室
出席者数	17人	傍聴人数	0人
議題	1. 第3期地域福祉計画・地域福祉活動最終案について 2. パブリックコメントの報告について		
配布資料	1. 次第 2. (資料1) 第3回策定委員会の意見 3. (資料2) 前回からの主な修正点・変更点 4. (資料3) パブリックコメントへの意見及び考え方 5. (資料4) 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画（最終案）		
所管課	(課名) 社会福祉課 (電話番号) 85-3553		

第4回地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録

第4回地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録

1 開 会

事務局（社会福祉課長）

2 議事（1）第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画最終案について（資料①②④）

（2）パブリックコメントの報告について（資料③）

（委 員）資料①の2番目の回答中、どういう団体が網羅されているのかという質問なのに、どういう団体なのかということに触れていないのではないのか。

（事務局）福祉ボランティアの登録については、社協で取り扱っているボランティア活動保険の登録者を福祉ボランティアの登録者数として挙げている。このボランティア保険に加入者は、区長、民生委員、見守りネットワーク協力者、ボランティア連絡協議会の加入団体の方になっている。それ以外では道路里親の方、地域でボランティアをされているような団体の方に加入していただいている。ここで質問と回答がずれているところがあるが、ボランティア保険の加入団体の主な方には、先ほどご説明させて頂いた方が主に入っておられる。

（委 員）団体名の一覧はないのか。

（事務局）申し込み時に判断しているので、特に用意はしていない。

（委 員）最初に読んだときに、社会福祉協議会の事業一覧がのっていたので、それと同じように団体名がずらっとでるのかと思ったのだが。

（事務局）資料①の質問内容と回答がずれていて申し訳ない。

（委 員）資料①4番目、子供のいる貧困世帯については、どのようにして把握されているのか、どのような定義なのか。

（事務局）回答のとおり、教育委員会のスクールソーシャルワーカーが把握している世帯への支援を検討している。

（委 員）その人はどのような状況を貧困としているのか。

（事務局）スクールソーシャルワーカーは、学校で問題行動等、担任の情報により、家庭を訪問している。今のところ不登校を含め、市内で大体20世帯ぐらいに定期的に家庭訪問している。どのようにという詳細は不明で、本当にそこが貧困家庭かと言われるとわからないが、問題行動があった家庭や、就学援助だけではどうしても追いつかない家庭を訪問している。また、現在、寄付でいろいろいただいた食品などを持ってまわるということも試行的に始めてはいるが、質問のように、貧困家庭を、まずどうやって見つけるのかは、ネグレクト等、問題のある家庭に手を差し伸べるなど、少しずつ手探り状態である。学校教育課とも協議をしながら進めていかないといけない課題だと思っている。

（委 員）非常にいいことですから進めていただきたい。

（委 員）資料①5のシルバー人材センターについて、この登録者数に対して需要というのはどの程度あるのか。

（事務局）シルバー人材センターの登録者は400名ほどで、仕事はセンターへの依頼を、適任と思われる方に回される。登録者の方には、草刈りが得意な方、家事とか、料理が得意な方がいらっしゃる。草刈りなどは、非常に季節的な波がある。シルバー人材センターでの仕事の配分が非常に難しいという状況で、またシルバー人材センターに登録されている方も、たくさんお金を稼ぎたい方や、ちょっと片手間という方もおられるため、マッチングが非常に難しい。手元にある資料では、就業している方の実際人数は330人前後で、約70人の方は名前だけの登録となっています。

（委員長）はい。ありがとうございます。特にほかにご意見がないようであれば、この案で了承したいと思います。

3 その他

・ 今後の流れについて

承認後の最終案について内部決裁を行い決定後、製本して委員の皆様にお配りをさせていただきます。

- ・ 策定委員の皆様、ひとり1人から、感想なりご意見をお願いしたい。
 - ・ 最後に健康福祉みらい部長よりご挨拶申し上げる。
- (委員) 策定委員会には、前回の5年前から、今回の策定にも携わらせていただいた。徐々には変わってきているが、基本的なところはそのまま、次の第4期には、もっともっといい案が出てくるのではないかと、社会の状況も変わってくるのではないかと考えている。私が1番気になるのは、2ページにあります自助共助公助で、共助に1番危惧感を感じている。隣近所の人たちとの交流がだんだん希薄になってきている。自分自身の周りを考えても、そのような状況下にあるので、この共助を、これから、もう少し細かく分けてどういうところで共助をしていかなければいけないし、高齢化率の上昇もある。また5年後には、大変すばらしい計画ができるように考えていけたらと思っている。
- (委員) 私は母子保健推進委員をやっているのですが、ほとんどが3歳ぐらいまでお子さんとしか接していない。私は常日頃、3歳までのお子さんが、どう無事に育ってくれるかということを考えている。どうしても小さなお子さんは同年代としか遊べないので、もっと赤ん坊と地域の人たちの触れ合いの場が必要だと思う。中学生のお子さんたちから赤ちゃんが怖くて触れなくて近づけないと言われる。交通事故にしても、小さい子がうろろうろしていても、中学生ぐらいの子どもたちには、目につかないようだ。だから、どうにかみんなで見守ることができないかと思っている。それをしていくためにはボランティアしている人間、母子保健の活動している人も2年ごとに半分ずつ変わっていくため、それまでの流れをどういうふうに伝えていったらいいのか考えさせられた。
- (委員) 初めて参加させていただいた。日ごろは保育園の事だけなので、いろんな意見が聞けてとても勉強になった。いろんなところと連携をとりながら、保育園を見ないといけないし、地域にしても鳥栖だけではなく、広い視野で見なければいけない今の時代に、鳥栖市をどうしようかというこの会に参加させてもらったのはとても勉強になった。友人から、久留米や鳥栖のホテルを利用して福岡の研修に参加すると聞いたときに、外から見ると、このまちがどういうまちの存在なのかを考える時代なのだと思った。保育園が保育のことだけではなくて、皆さんの意見を聞きながら、どうお母さんたちと向き合ったらいいのかを考えるというふうに、視点が、少し広がりました。皆さんありがとうございます。
- (委員) 私は、この鳥栖市がたいへん住みやすいまちであり、福祉や医療部分でも大変恵まれているまちであると、とても痛感している。実際に住みやすい市の上位であり、よその市と比べれば人口も増えてきているが、逆に住みやすいが故に、マンションにお住まいの高齢者が増えたとか、福祉サービスなどが整っているが故に障害をお持ちの方たちが増えたとか、問題を抱えた方たちがたくさんここに入ってきているという現状もある。そういう現状を踏まえると、この福祉計画の5年後に、どういう方たちがこの鳥栖市にお住まいになられて、周りの方たちがどういうかたちで会をされるかによって、5年後の計画がまた新たに充実し、変わらなくてはいけなくなるのではないかと考えている。
- (委員) 私も今回初めて参加させていただいた。介護の世界から見ると、私どもでグループホームと保育園とを一緒の場所でやって、幼老交流ということをやっている。お年寄りも非常にいきいきとされ、子どもたちもお年寄りに抱っこされると、非常に自然な笑顔が出てくる。そういう通いの場は施設じゃなくて、市なり地公体でできれば、非常にいいと思う。子どもの貧困の問題も、アンケートやご意見を見ても、ボランティアのどういう団体があるのか、どういう活動をしているのかのアピールの積み重ねが、地道な活動ですけど、地域の交流が少なくなっているだけに、人と人との交流ということにつながっていくかと思う。我々も今回、昨年3月に改正がなされました社会福祉法の改正があって、今年の4月から、法律が施行される。社会福祉法人に、社会に貢献することを求められる時代になってきた。それは、当たり前なことをもう一度見直ささいということだと思う。このような機会を通じて情報を発信したりするなど、みんなのつなぎ役としての役割を果たしていければと思っている。
- (委員) 老人会からの参加です。老人会も加入者が減ってきて、昔からのまちの参加者は多いが、新しいまちだと参加者が少なくなっている。老人会で参加を募るのは難しい。老人会でも自助、共助がうたっている。隣近所とは1番仲良くして、部落にも貢献しないと、老人会へ参加される方もいらっしゃるが、65歳から加入せずに、70すぎからとか、80前から入ってくる方もいるのが現状です。私もこの会に初めて参加させていただき、

役に立ったかと思っている。

- (委員) 私は民生委員の立場で参加させていただいた。いろんなお話や、計画案には、いろんな問題があるが、民生委員制度も 1917 年に 1 番最初の形ができ、今年で 100 年です。民生委員は、当初は、貧困家庭、いわゆる生活保護に携わっていたが、今はいろんな社会問題が出てきて、最も領域を占めているのが、高齢者のひとり暮らしの方や、高齢者のみの世帯の方をいかに社会に引き出すか、見守りをするかということだ。ひとり暮らしの食事会や見回り隊をやっているが、参加者は限られた方で、私たちの目にもなかなか入らない方が多い。その中で最近、子ども食堂が話題になり、鳥栖市内でもある町でやっている。子どもだけでなく、高齢者の方にも声かけすれば、2 時間くらい、楽しく交流をされる。近隣では大野城市が 27 自治体全部で子ども食堂をする話もあっている。高齢者だけを見ても高齢者の問題は解決しないので、社会全体で、子どもも含めてやっていくような方法を民生委員会としても、取り組んでいけたらと思っている。
- (委員) 鳥栖保健福祉事務所から行政の立場で参加させていただいた。今回の計画は鳥栖市の計画だが、この会でいろいろな立場の委員さんからお話を聞く事ができ、県にもいろいろと参考になることがあった。1 期、2 期、3 期とこの計画を積み重ねられて、非常に内容的には充実したものが盛り込まれているが、絵に描いた餅にならないよう、実際にどう効果的にこの事業を進めていくかという工夫が大事だと思う。その中で、この鳥栖市にいらっしゃるいろんな活動されている方たちの知恵をうまく引き出して、委員の皆さんや、いろんな団体や機関の皆さんと一緒に、この計画を遂行していただけたらと思う。県も反省とともにそうなりたいと思っている。1 番の課題は地域包括ケアで、いろんな立場の他職種の団体を含めて関わっていく取り組みになるので、そういう大きな動きができればなと思っている。
- (委員) 鳥栖三養基医師会からです。前回は参加させていただいた。福祉の分野は非常に多岐にわたって、すごく大変だと思う。社会保障費全体が非常に削減されてきていて、困っている人をどのように救うかということは、非常に大切なことと思うが、やはり自助共助がどうしても前面に出る。出来るだけ予算がかからないようにしてほしいということだと思うのだが、やっぱり行政や議会も市民参加を促すためには非常に大切だと思うので、財政面でなくてもぜひ指導的立場で行っていただきたい。計画とは関係ないですが、休日センターを充実させようと考えている。小児科の患者数は多いが、小児科専門の先生はわずか 4 人しかいないので、毎月大学の先生に月 1 回来てもらっているが、この回数を増やすことをお願いしている。また、夜間に聖マリアに行くのがたいへんなので、夜間の体制についても充実させていきたいと思っている。
- (委員長) 私は今回の参加で 3 回目です。今回の委員会の皆様方が 1 番ご意見を活発におっしゃった印象がある。私の力不足もあって、計画に皆さんの意見を反映させるのには不十分な点があったかと思う。高齢の分野の介護保険事業計画や障害の分野の障害福祉計画や障害者福祉計画、新たにできた子育て支援計画には策定義務があって、それぞれに策定の形が決まっているが、地域福祉計画には策定義務はない。地域福祉計画は、それぞれの計画を横につなげていく計画で、横のつなぎ方が難しい。みんなそれぞれ自分の領域は一生懸命計画されるけれども、それをどうやって繋いでいくのかはよく分からない。それを繋いでいく大変さもあったと思うが、地域福祉計画というのは、行政と地域住民がどうやって助け合っていくのかという計画でもあるので、5 年後の計画は、子育ても高齢者も障害者も地域のことも全部含めた、鳥栖市地域福祉総合計画を一本つくって、その中で全てを網羅するのが 1 番いい形で、わかりやすいと思う。先進的な地域にはすすめておられるところもあるので、できれば 5 年後に向けて検討してほしい。また、それを実際進めていくためには、社会福祉協議会が大きな役割を果たしている。地域福祉計画の推進は社協の力がなくては成り立たない。今後ますますの活躍を期待します。
- (事務局) 皆様方からいただいた貴重なご意見を肝に銘じながら、この計画を実行させたい。最後に、健康福祉みらい部長から皆様方に御挨拶申し上げます。